



『実りをもとめて』

## 標 点

### 議会質問

県教育庁教育次長

浮 田 信太郎



議会質問は、県政に関する中長期的な課題や当面する喫緊の課題に対する岡山県民の思いや要望の集約であり、正に時代を映す鏡と言える。過去に県財政が危機的な状況に陥った際は財政所管部局に質問が集中し、平成30年7月豪雨災害後は防災所管部局に、また、最近では新型コロナウイルス感染症対策について保健福祉部局に多くの質問が相次いだ。

直近の6月定例県議会では、ロシアのウクライナ侵攻による影響、J Rローカル線の維持を含む地域公共交通の問題、物価高騰対策、観光振興など、県政全般について297の質問があり、このうち教育庁関係の質問は47であった。

その内容を紹介すると、県立高校の魅力化・再編、特別支援学校・障害児支援に関するものがそれぞれ8問、4月に施行された家庭教育応援条例に関して7問、総合教育会議関連、地域移行の議論を含む運動部活動に関するものが各4問、新型コロナウイルス、「夢育」の関連が各3問、給食費等の高騰対策が2問の他、子どもの体力向上、学校施設の整備や通学路の安全確保、食育に関するものなどであり、今、こう

いった課題に県民が関心を寄せていることが分かる。

一方、現在重点的に進めているICT教育の取組に関する直接的な質問はなかったが、ご承知のとおり、高校においては新学習指導要領が本格実施されており、今月号の特集テーマでもあるGIGAスクール構想に基づくICTを活用した教育の導入を進めている。また、小・中学校においても1人1台のコンピュータやタブレットが入り、ICTを活用した授業が各学校で行われている。ICTの活用は、今後の新たな教育環境の構築はもとより、教職員の働き方改革への大きな一歩となるはずであり、今後、多くの質問が予想される分野と考える。

9月は定例県議会の開催月である。我々は独善的にならぬよう、日頃から幅広い情報収集を行うことは勿論のこと、議会質問という機会を通して県民の思いを受けとめ、子どもたちの未来のために、目指すべき教育の実現に向けて進まなければならない。今議会は、どのような観点からの質問が行われるか注目したい。